

WEEKLY SIGNAL

平成31年4月5日(金) 1469号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	4/8(月)	4/9(火)	4/10(水)	4/11(木)	4/12(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 700	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 2,000	ト ン	△ 19,000	ト ン	△ 6,000
資金需給	△ 1,300	+ 1,000	△ 19,000	△ 1,000	△ 7,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(5年) 国庫短期証券発行・償還(6M)		源泉税揚げ 交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 5,100 国債補充供給 + 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 5,100 ETF買入 + 100				
(日本)	日銀、定例支店長会議 黒田総裁の挨拶要旨 地域経済報告(4月)		黒田総裁、挨拶(第94回信託大会) 機械受注(2月) 国内企業物価指数(3月)		日銀 営業毎旬報告 (4月10日現在)
(海外)	米 製造業受注(2月)	米 FRBクワダ副議長、講演	米 FOMC議事要旨 (3月19~20日開催分) 欧 ECB金融政策決定会合・ ドラギ総裁会見 米 CPI	米 G20財務相・中央銀行総裁会議 (12日まで) 米 FRBクワダ副議長、講演 米 セントルイス連銀総裁、講演 米 新規失業保険申請件数 (6日終了週) 米 PPI(3月) 中 CPI・PPI	英 英国のEU離脱期限 米 シカン大消費者マインド指数 (4月、速報値) 中 貿易収支

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初392兆3,300億円から始まった。その後は税揚げや国債発行等を主に減少し、週末には389兆6,000億円となった。無担保コールON物は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした資金調達ニーズが週末にかけて緩やかに高まる展開となった。同加重平均金利は週初△0.067%から始まり、その後は上昇基調を辿りながら、週末となる5日には△0.063%となった。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.050%~△0.035%の水準で出合が見られた。日銀が1日に発表した3月の全国企業短期観測調査において、大企業製造業の景況感を示す景況判断指数(DI)は12となり、前回の2018年12月調査から7ポイント低下した。同指数の悪化は2四半期ぶりであり、下げ幅としては2012年12月以来6年3か月ぶりの大きさとなった。来週の主な予定は、国内では日銀支店長会議(8日)や4月の地域経済報告の発表(8日)などがある。海外ではECBの金融政策会合、ドラギ総裁の会見(10日)やFOMC議事要旨公表(3月19~20日開催分)(10日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.18 ~ △0.12
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約9,400億円で、週間償還額(約2,900億円)に対し大幅な増加となった。発行市場は、事業法人の大型案件が連日発行されたものの、件数は少なく落ち着いたマーケットであった。3月末残高は15兆5,294億円であったが、商社・鉄鋼等の発行再開により4日の発行残高は2兆強増加し、約17兆6,500億円となった。発行レートは、投資家・ディーラー等の積極的な購入ニーズから、0%からマイナスでの出合いであった。CP等買入オベが、2日に1,500億円度オファーされた。結果は、按分落札レート△0.002%・平均レート△0.001%と、前回(按分落札△0.009%・平均△0.005%)比で上昇した。来週の償還総額(4/8~4/12)は、3,300億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されているため、発行超を予想する。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが引き続き強く、0%からマイナスレートでの出合いとなろう。CP等買入オベが、9日に1,500億円程度オファーされる予定。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は決算期末であった先週と比べ軟調な地合い。3日入札の3M823回債は最高落札レート△0.1497%(前回債△0.1824%)、平均落札レート△0.1628%(同△0.1958%)と前回債から大きく上昇。5日入札の3M824回債は最高落札レート△0.1400%、平均落札レート△0.1444%となった。セカンダリー市場では3M物は△0.15%程度、6M物は△0.16%程度となっている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.085%~△0.095%から始まった。TDB3Mの発行日である4日受渡しは、△0.08%近辺まで小幅上昇。以降は週初同様△0.085%~△0.095%の出合いが続いた。SC取引では10年353回債のbidが多く、国債買入オベがオファーされた4日受渡しでは、前場△0.10%台半ばの出合いが見られた。10年354回債は、週後半△0.10%台前半で多く取引された。他2年397・398・399回債、5年136・137・138回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352回債、20年164・165・166・167回債、30年59・60・61・62回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。